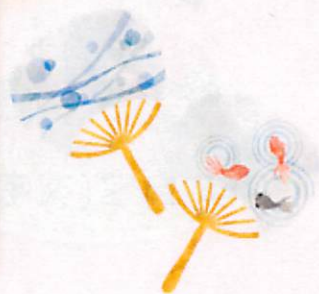




いなふくみ



日常生活リハビリテーションへの取り組み

介護老人保健施設ミドルホーム富岡 副施設長
田村 平太郎

介護老人保健施設は、医師による医学的管理の下、看護・介護を提供し在宅復帰を目指す要介護高齢者（要介護1以上）の利用者さまが入所されている施設です。当施設では、作業療法士や理学療法士によるリハビリテーションや栄養管理・食事・入浴などのサービスを併せて提供しています。利用者さま一人ひとりの状態に合わせたケアプランを立て、専門スタッフが連携（多職種連携）し24時間体制で医療的ケアにも対応しています。

在宅復帰を実現するために、作業療法士や理学療法士による専門的なリハビリテーションの他にも看護・介護スタッフが日常生活の中にリハビリテーションを取り入れたケアを行っています。具体的には、トイレや着替え、入浴、食事などの生活動作をリハビリテーションとしてとらえ、支援するという考え方です。特に認知症の利用者さまの対応は、中核症状や周辺症状を理解し、声掛けや環境設備、他利用者さまとのトラブルを防ぎ、安心して生活できるよう関わります。そのために、入所生活場面で適切な介助を行う事で、能力の維持・向上を図ることを目指します。その際大切なのが①利用者さまの能

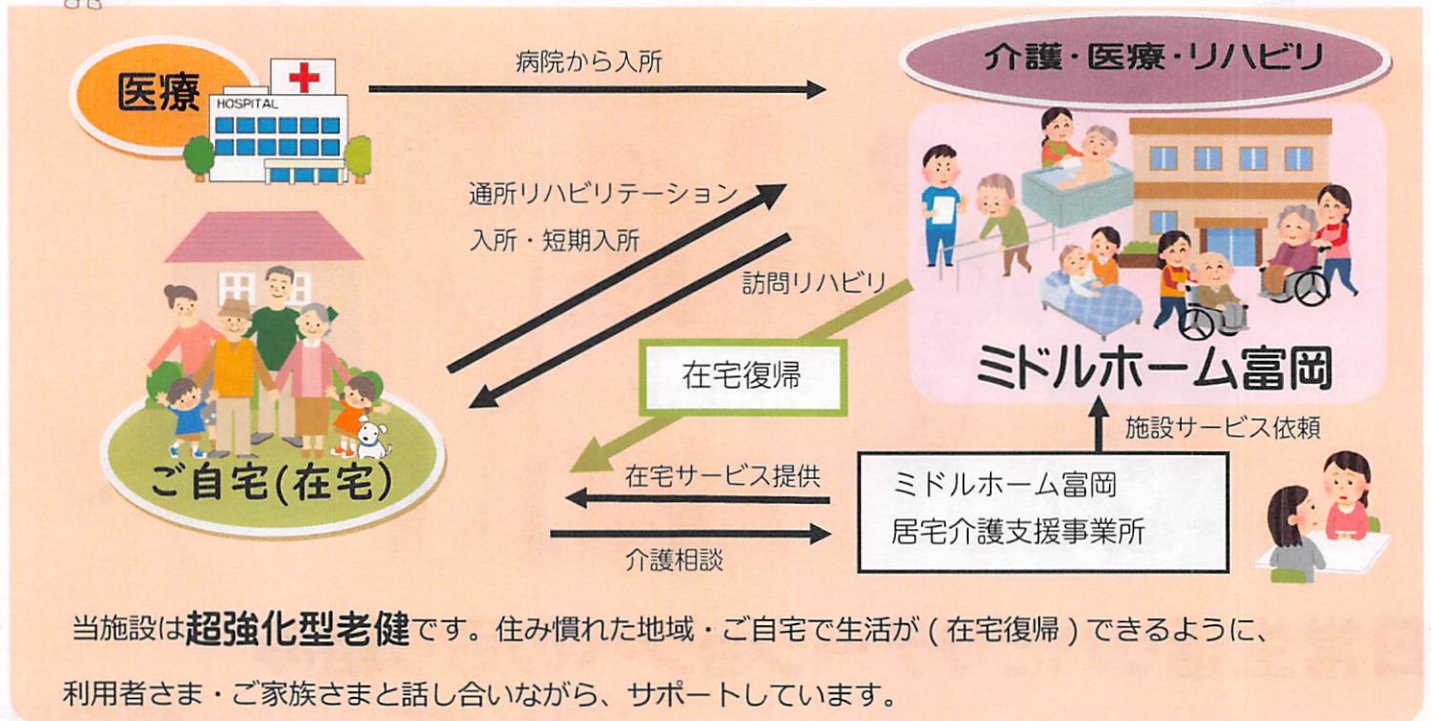
力を生かす、②適切な介助量の2点です。利用者さまの実際の能力を把握せず、利用者さまの為にと思い、手となり足となり動き回することはよいケアとは言えません。利用者さまが立つことが可能であれば移乗時に立つ動作を行っていただく、寝たきりの状態であっても手足が動けば着替える時に袖を通していただくなどの関わりを行います。なるべく自分で行えるような環境設備・福祉用具選定・介護量の調整を行い過介助にならないような対応を行います。日常生活動作を工夫することで、身体機能の維持・向上を図ります。また、利用者さまのその日の状態によって無理をさせない判断も必要となります。認知症の進行に伴い、中核症状と周辺症状の悪化など見られるケースがあります。個々の利用者さまの日頃の状態観察がとても重要です。当施設では、スタッフ一人ひとりが利用者さま目線でのケアに取り組んでいます。

今後も介護老人保健施設として利用者さま一人ひとりの状態に応じた、よりよい看護・介護が提供できるよう努力していききたいと思います。

ミドルホーム富岡の紹介



入所・短期入所（泊り）、通所リハビリテーション（通い）、訪問リハビリテーション（訪問）を提供しています。



超強化型老健とは・・・

在宅復帰や在宅生活支援について高い内容で取り組んでいる事、在宅復帰率等の実績を挙げていることに加え、要介護状態が重度の人でも積極的に受け入れ手厚い体制で支援している事、そして、何より充実したリハビリテーションを実践している事、さらには、地域貢献活動をしている事。これらのことが超強化型老健となるための条件となっています。

在宅復帰に向けての取り組み

病院からミドルホーム富岡へ入所すると、ご自宅の様子を把握するために、利用者さまと職員同行でご自宅へ訪問し家屋調査を行います。在宅復帰に向けて、どんなことが必要なのか、またはご自宅でどんな動作が困難だったか把握します。その後、スタッフとカンファレンスを開き、なにができるようになれば自宅へ帰れるか、どんなサービスを入所中に提供すればよいか話し合います。そして、話し合ったものを日常生活の中に取り入れたり（生活リハビリテーション）や、個別リハビリテーションを行っていきます。ご自宅へ帰る前に再度家屋調査をし、動作の見直しご自宅へ帰れる準備をして、ご自宅へ帰れるように提供していきます。



在宅復帰後もサービス提供を行っています

在宅復帰後は日帰りでご利用できる通所リハビリテーションをご利用いただき、ご自宅でできる限り長く暮らしていただけるよう入所サービスと同様にリハビリ専門職によるリハビリテーションを実施しています。また、日常生活の中で看護・介護職員と協力しリハビリテーションを行い、入浴や一人ひとりに合せた食事の提供や排泄等必要なケアを行うことで身体機能を維持することができます。

さらに、介護者が少し休養をしたいときや、冠婚葬祭や旅行などご家族さまが家を留守にするときや、ご本人が集中してリハビリテーションを受けたいときなどは短期入所（ショートステイ）をご利用していただき、在宅生活を支援しています。



認知症専門棟の紹介



認知症専門棟では一人ひとりに合わせた対応を行っています。

認知症といっても、症状はさまざまです。

さまざまな症状に合わせてミドルホーム富岡で取り組んでいる対応を紹介します。

《生活リハビリ（普段の生活の中でリハビリ）の取り組み》

在宅復帰に向けて、普段の生活の中でリハビリテーションに取り組んでいます（生活リハビリ）。利用者さまの能力を生かし、取り組める生活リハビリをスタッフで考え行っています。生活リハビリの他にもリハビリ専門スタッフによる個別リハビリテーションを週に3回、利用者さま一人ひとりに合わせて取り組んでいます。

《帰宅要求がある方の対応》

ミドルホーム富岡に入所されている方には帰宅要求がある方がいらっしゃいます。その方には、利用者さまの想いを傾聴しています。また、傾聴しても落ち着かない場合もあります。そんな時は利用者さまが好きなこと（例えば、好きな折り紙を使った作品作り）を行っていただいたり、仕事熱心な方には洗濯物たたみの手伝いを行っていただいたり、利用者さまに合わせて対応しています。



《声のかけ方の工夫》

利用者さま一人ひとりに合わせた言葉を選び、声をかけています。丁寧な言葉遣いの方が良いように思いますが、丁寧に接することで遠慮してしまう方もいます。そういった方には家族の方が話しかけているような声掛けをさせていただく場合もあります。

《仕事をしたい方の対応》

利用者さまの中には「まだまだ仕事をしたい、何かやることはないか？」と、職員に声をかけて下さる方がいます。その方には、洗濯物たたみのお手伝いをして役割を持っていただいています。また、利用者さまの好きな事、出来る事を把握し、楽しく作業が取り組めるように、利用者さまに合わせて作品作りを提供しています。

季節の催し物や日々のレクリエーション・集団活動の取り組みも行っています。

集団体操



じゃがいも植え



季節のイベント(花見)



介護老人保健施設

ミドルホーム富岡

〒370-2321 群馬県富岡市岡本 965

●問い合わせ TEL. 0274-64-3911

●URL : //www.middle-home.org/



認知症フェスタ in しもにた

2019年6月2日(日)下仁田町文化ホールにて、下仁田町と共催で『認知症フェスタ in しもにた』を開催しました。

～下仁田町でいつまでも元気に暮らすために～をテーマとした講座では、大和会の武田理事長に『健康寿命をのばすためのおトクな話』の講演をしていただき、認知症フェスタ恒例の寸劇『黄門様が認知症になったら』では、下仁田町職員の方と黄門様が初共演、息の合った迫真?の演技で会場が笑いの渦につつまれました。また、『皆さんの認知症の疑問に答えます』のコーナーでは、西毛病院の高木院長から軽度認知障害(MCI)について5つの定義をもとに事例を交えながら分かりやすく説明していただきました。



寸劇『黄門様が認知症になったら』の様子

介護予防カフェ・かのはらカフェ・コグニサイズ体験コーナーにも大勢の方に参加いただき、下仁田町の皆さまの認知症への関心の深さを感じとることができました。

当会では、医師・精神保健福祉士・介護支援専門員・看護師・リハビリスタッフ等が力を合わせ、これからも地域の皆さまが自分らしく元気で過ごすことを意識し、健康寿命を延ばしていただけるようお手伝いさせていただければと思います。

当日ご来場いただいた皆さま、並びにご協力いただきましたスタッフの皆さま誠にありがとうございました。



介護予防カフェの様子



かのはらカフェの様子



コグニサイズ体験コーナーの様子

西毛病院夏祭りにお出かけください

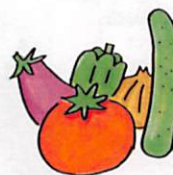
8月8日(木)西毛病院『夏祭り』が開催されます。『冷和(つめたい…わ)』地域・患者さま・職員の和をテーマに、富岡いずみこども園・かのはら御囃子連の皆さんをお招きして、お祭りを盛り上げていただきます。



恒例のバザー・模擬店・盆踊り・花火も予定しています。真夏の暑さを忘れて涼みながら楽しい時間を一緒に過ごしましょう。

編集後記

夏になると食べたくなるもの。そうめん、冷やし中華、かき氷、アイスクリーム。夏野菜やスイカも収穫の時期を迎えます。食欲の秋とはいいますが、夏にも美味しい食べ物がたくさんありますね。暑さだけでなく、夏の味覚にも注目していきたいですね。



ご質問・ご相談など、お気軽にお問い合わせください。

〒370-2455 群馬県富岡市神農原 559-1 TEL 0274-62-315

URL <http://www.seimou.org/>

令和元年6月25日 発行：医療法人 大和会 編集：広報活動委員会



医療法人 大和会

